

メディカルバレー通信

M E D I C A L V A L L E Y P R E S S

2009春号

VOL.14



ごあいさつ

皇學館大学 学長
伊野 五十嗣郎

皇學館大学は「共生」のキーワードのもと
メディカルバレーに参画します

地域の資源を有効に活用し、生産者と利用者が協働して、消費者のニーズに適切に対応した良質の製品やサービスを供給する、競争力のある地域振興に取り組む、県民の健康と福祉の向上、そして活力にあふれた地域づくりを目差すことを基本理念とする、三重県のメディカルバレー構想が、近年着々とその実をあげておられる状況伺っております。

県では、特に医療・健康・福祉という三分野において、有機的なネットワークを形成し、新たな産業集積を図ると共に、この三分野に関連する質の高い製品とサービスを提供できる地域の形成を目差して、平成14年4月に「メディカルバレー・プロジェクト」を開始されました。

現在では、産学官民のそれぞれから、上記三分野に関連する240社の企業、大学・高専などの教育機関11校、さらに研究機関・産業支援機関・医療や福祉などの施設が協力体制を組み、ドイツ・スウェーデン・デンマークなど、海外のバイオクラスターとも連携を深めておられる由、御努力に深い敬意を表する次第であります。

多様な産業クラスターの結集により、競争力のあるメディカル分野の産業が創出され、消費者たる県民の厳しいニーズに応えることの可能な、質の高い製品やサービスの提供が、益々促進されるものと期待してやみません。

さて、皇學館大学は江戸時代から続く伊勢神宮の学問所「林崎文庫」の中に、明治15年4月創設されました。当時は文明開化真只中の時代でありましたが、皇學館は伊勢の地で育まれた神道研究の伝統を継承し、日本人としての自覚を確立して、日本の国柄や国ぶりを明らかにすることを使命としてきました。

最近、神道の優れた自然観が注目され、その特徴が自然との「共生」といった語で表現されます。この場合「共生」という語には、自然万物、森羅万象に神霊や生命が宿ると捉え、あらゆる事物に感謝や畏敬や慈しみの心をもって接しようとする、神道の考え方が込められていて、社会福祉や環境問題など今日の社会的課題を考察し、その解決をはかる上で、極めて重要な示唆を含んでいます。

こうした点など、今後皇學館大学がメディカルバレーの構想に参画して、通常の支援とは別に、何か皇學館大学ならではの特色ある役割を果たすことができるのではないかと、密かに考えているところであります。

産学官による
共同研究や
研究開発を
支援します

メディカルバレープロジェクトでは、産学官による共同研究や研究開発を促進するため、企業を対象とした共同研究の補助や研究者を対象とした委託研究を行っています。平成21年度もこれまでと同様4月に募集を行う予定です。皆様、ぜひご応募下さい。

平成20年度採択状況は本誌4・5頁の「メディカルバレー推進事業の進捗状況」参照。平成21年度公募情報については3月下旬、メディカルバレープロジェクトHP (<http://www.mvp.pref.mie.jp>) から詳細をご覧ください。

■ お問い合わせ ■

三重県健康福祉部薬務食品室 メディカルバレー推進グループ

TEL 059-224-2331

FAX 059-224-2344